



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

教師の数学教育観の形成・変容に関する事例研究： ある中学校教諭のライフストーリーの分析・解釈

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 公開日: 2021-07-06 キーワード (Ja): 数学教師教育, 数学教育観, ライフストーリー, 統合・発展, ETYP:教育関連論文 キーワード (En): Mathematics Teacher Education, Beliefs about Mathematics Teaching and Learning, Life story, Integration and Development 作成者: 森田, 大輔 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173410

教師の数学教育観の形成・変容に関する事例研究

—— ある中学校教諭のライフストーリーの分析・解釈 ——

森 田 大 輔*

教師の信念は「文化的営み」としての授業を方向づける要因となる。日本の数学教師は「子どもの数学的な考え方や多様な考えを活かして、子どもが主体的・発展的に算数を創っていく授業を展開する」という数学教育観を保持しているとされているが、このような数学教育観がどのように形成されるに至ったか、またその過程でどのような経験が伴っているかは明らかになっていない。そこで、本稿では、1人の数学教師を事例として、その教師が経験を重ねていく中で、数学教育観をどのように形成・変容させたかを明らかにすることを目的とする。目的を達成するために、本稿では、ライフストーリーを用いることとする。ライフストーリーとは「個人のライフ（人生、生涯、生活、生き方）についての口述（オーラル）の物語」であり、「個人のライフに焦点を合わせてその人自身の経験をもとにした語りから、自己の生活世界そして社会や文化の諸相や変動を全体的（ホリスティック）に読み解こうとする質的調査法の一つ」である（桜井、2012）。日本では、ライフストーリー研究は教師の信念に着目した研究もあり、本稿の目的と合致するものである。

本稿では、関東近県の中学校に勤務し、14年の教職経験を持つ男性教員の語りを分析する。この教員の語りは、時系列的に整理し直し、学習者期、初任期、長期研

修期と大きく3つに区分した上で、記述を行った。そして、既存の先行研究と照らし合わせながら、記述されたインタビューデータから推測される社会的コンテキストが数学教育観の形成・変容にどのような影響を与えたのかを分析・解釈する。

インタビューを分析・解釈をした結果、「いかに分かりやすく説明するか」「数学の系統性を念頭において指導にあたるべきである」という数学教育観を持っていた教諭が、初任校での経験を通して「統合・発展は数学の本質である」、「子どもの考えに沿う」という数学教育観へと変容させ、さらに長期研修を通して、「統合・発展」が元々ねらいとしていた「子どもに疑問を持たせることの重要性」、「問題を解きたいという気持ちにさせる」、「子どもたちが自ら発見・創造する」へと数学教育観を深化させたということを明らかにした。

Key words

数学教師教育、数学教育観、ライフストーリー、統合・発展

*東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 自然系教育講座